



【somewhere】

標 点

持続可能な教育の実現

早島町教育委員会教育長

白 神 敬 祐



「先生でできたよ。丸付けして」と、土曜はやしま塾の児童。「絵を描くつて、英語でどう言うの」と、土曜英会話塾の児童。時間の許すかぎり、私も参加し、アシスタントをやっている。楽しい時間である。

早島町では「早島町学校教育ビジョン」の下、「教育のまち・早島」宣言を行い、「喜んで登校・満足して下校、行きたい・行かせたい学校園」を目指し、15歳の春を見すえた持続可能な教育の実現に向け、学校園・地域・行政が一体となった取組を進めている。そして、子どもたちも町民も地域を誇りに思う「協働・協学・協育」の町づくりを志向している。また、昨年12月に策定された第5次早島町総合計画の中に、学校教育の体制強化や社会教育の環境整備等が、数値指標とともに掲げられている。

さて、小・中学校に引き続き、高等学校も、今年度から新しい学習指導要領に基づく教育課程となり、学年進行で実施されている。私は、高等学校外国語の昨年度までの学習指導要領の

改訂に作成協力者として携わった経験がある。平成22年5月に解説が発刊されるまでに3年余りを要し、作業は非公式に進められた。その間、職名も教諭から教頭が変わった。その学習指導要領では、「授業は、英語で行うことを基本とする」とが初めて明記された。今では、当たり前になってきていることだが、当時の状況はどうだったか。先生方に浸透するように、自分が何ができただろうか。研修会の講師を何度かしたことはあると記憶しているが、手立ては尽くせたのか。反省しきりである。

その後、教育行政や学校経営に10年間携わった。その時々々に教職員の皆さんが遺憾なく力を発揮できるように努力してきたつもりであるが、どうだったか。この10年間の私自身に後悔はない。4月から立場が変わったが、持続可能な教育を実現できる学校園にするという目標を定め、反省しきりにならない意気込みで取り組んでいる。